

教職大学院 NEWS

vol.46

2023. 3月発行

三重大学大学院教育学研究科
教職実践高度化専攻



5期生へのお祝いのことば

専攻長／5期生担任 織田泰幸

5期生のみなさん、修了おめでとうございます。この2年間、みなさんが真摯に学ぶ姿を見ました。私は、最初のオリエンテーションで次のことをお伝えしました。

大学院には多様で個性的な学生と教員がいます。大学院における同期は生涯を通じた仲間となり財産になります。お互いに節度と敬意を持って接し、そして「仲よく」学び合いましょう。

みなさんは新しい教職大学院の最初の入学者として、この話の意図をよく理解してくださり、実際にそのような学年と気風を創りあげてくれました。これからも教職大学院で学んだことを生かして、「学び続ける教員」として自らを高め、子どもたちのために良き教師であり続けてほしいと思います。皆さんのご活躍を心より祈念しております。

2年間をふりかえって

～5期生が教職大学院で学んだこと～



岡田 高德	入学した2年前の自分と修了する今の自分。比較するとまるで別人です。この2年間、素晴らしい仲間と共に教育に真摯に向き合い、対話を重ね、情熱をもってお互いの実践力を深め合ったこと。東紀州実習や連携校実習でのたくさんの人との出会いや、所属校実習での同僚の方々に協力いただいたこと。やはり「教育の原点は“人”である」と断言できます。関わっていただいたすべての“人”に、心より感謝しています。
木村 弘孝	様々な市町、校種の方と出会えた2年間でした。講義の中では、現職の先生や新卒等院生の方とたくさんのお話ができ、刺激を受けることができました。2回の長期実習では、実習先の教職員の皆様と子どもたちのかかわりから、自分の学修テーマの礎となる大切なことを教えていただきました。来年度から現場に戻りますが教職大学院で学んだことを活かし、子どもの心に寄り添っていけるように、日々精進していきたいです。
阪本 明士	この2年間の大きな財産は、学びを通して得た「人との出会い」でした。先生方、同期生の仲間、研究を通じて知り合った方々などから多くの刺激と気づき、勇気をいただきました。本来、学びは厳しいものでなければならぬと考えています。しかし、一人ではなかなかできないものです。背中を支え、時には押してくれた方々に感謝いたします。次は自分が子どもたちを支えなければいけないと思っています。本当にありがとうございました。
鈴木 一将	教職大学院で学んだ2年間で最も大きかったのは、ともに学ぶ仲間や先生方の存在です。互いのこれまでの経験や勤務校の現状、そして研究について議論する中で、自身の考えが変容したり、確かなものになったりしてきました。これから現場に戻り、「理論と実践の往還」を体現し、勤務校や地域の教育に、微力ながら貢献できれば幸いです。関わっていただいた全ての方に感謝致します。ありがとうございました。
古瀬 智也	教職大学院での2年間という時間は、様々な人と出会い、そして対話し、自身の視野を広げることができた、そんな貴重かつ必要な時間でした。改めて教育というものが、深く、奥行きのあるものであると認識できました。これからも、人との出会い、対話を大切に、物事を立体的に捉えることを意識していきたいです。ありがとうございました。
鈴木 理奈	教職大学院で理論的な知識と学校現場での実践を融合させながら学ぶことにより、自身の「教育観」を様々な角度から見つめ直すことができました。この経験を積み重ねることにより、教師として教壇に立つ自信を持つことができました。ここで学んだことを活かして、これから現場での実践に励んでいきます。ご指導いただいた先生方、共に学んだみなさん、ありがとうございました。



小倉 穂乃実	教職大学院での学びの2年間は、私にとって大変かけがえのない時間となりました。さまざまな校種にわたる実習や、授業での学び、大学院の先生方や院生との関わりの中では、聞くこと、そして話すことの繰り返しの中から新しい考えが生まれ、そして最終的にはその学びが自分の研究に帰ってくるという、かけがえのない経験ができました。大学院での学び、そして学び方を生かし、これからは教員として学び続けていきたいです。
北風 翔大	まずは2年間、私の研究にご指導、ご協力頂きました皆様、本当にありがとうございました。4月からの教員生活では、この2年間の学びを活かします。最近ふと考えます。自分の研究はこれからの国語教育においてどのように位置づけられるのでしょうか。この2年間で得た研究の結論は未熟でまだ中途です。生涯学び続けたい！何かを残したい！心からそう思うのです。
木下 絵里加	教職大学院では、学びの多い充実した2年間を過ごさせていただきました。実習や講義、多くの先生方との出会いを通して、学校教育全般や教師という仕事そのものに関する見識を深めることができました。教職大学院で学んだことで、自分の教育に対する考え方がより深く、幅広くなったと感じています。これからの教師生活では、これまでに培った学びを生かし、全力で努めていく所存です。ありがとうございました。
駒田 健志	「拡散と収斂」という概念に出会ったことで私の研究は一気に進みました。暗中模索で進んでいた研究が、一気に晴れたあの日のことは、今もはっきり覚えています。私には、それは院生控室での仲間との会話の中で生まれました。だからこそ、単元授業設計も研究も一人で黙々と行うものではなく、協働的対話によって深化するのだと強く感じています。ともに切磋琢磨することのできた同期の皆さん、支えてくださった先生方、2年間本当にありがとうございました。
武田 彩那	教職大学院で得たことは「経験」です。積極的に非常勤講師や学生アシスタント等を行うことで子どもと関わる機会を持ち、経験を積むことができたと思います。学部を卒業してすぐに教員として働いていたらできなかった経験を沢山させていただきました。4月からは2年間で学んだ知識、経験を活かしていきたいと思っています。
中西 翔野	この2年間で私の教育に対する視野や考え方は大きく変わったと思います。大学院の先生方、同じ5期生のみなさんと学べたこの2年間に感謝をし、ここで学んだことを実現できるよう精進していきます。ここでの学びを原点にし、これから始まる教師という仕事に真摯に向き合っていきたいと思っています。本当にありがとうございました。
中村 数理	教職大学院での2年間は何ものにも代えがたい貴重な経験をたくさんしました。特に講義でさまざまな教育に関わる理論や課題について同期の院生のみなさんと対話することで曖昧だった自分の見方・考え方が明確になったり、見つめなおしたりする機会となりました。教職大学院は卒業しますが、ここでのつながりをこれからも大切にしながら研究をライフワークにしていきたいと思っています。ありがとうございました。
橋本 銀司	私にとっての1番の学びは、「教師として何を大切にしたいのか」に気づけたことです。来年度から、ようやく現場に出ることとなります。初心の気持ちを忘れることなく、日々の教育実践に取り組んでいきます。しかし、この学びは私一人では決して到達することができませんでした。5期生のみなさんや指導教員をはじめ多くの先生方との関わりの中から、得られたものであると思っています。5期生、先生方、そして大学院進学への背中を押してくれた家族、その他多くのみなさんへの感謝の気持ちは忘れません。2年間、本当にありがとうございました。
山本 洋也	教職大学院では、「研究」という答えのない、問いの中を生きることができました。その研究や実習を通して関わらせていただいた先生方、そして共に学び合った5期生の方々との出会いは、私にとって宝物です。ここで学びを止めることなく、「学び続ける教師」としてこれからは大切にしていきたいと思っています。2年間本当にありがとうございました。
若林 徳亮	2年間は、正解のない問いを考える時間でした。ただ一つの正解を探すのではなく、仲間とともに1つの実践や1つの出来事に向き合うこと、その中で自分の枠を更新していくこと。実践のおもしろさと教育の奥深さを頭と心と身体で体験できました。5期の皆でそのような時間を過ごすことができたことが大きな財産です。これから大学院生でなくなっても続けていくことを課題としたいです。
森井 集也	大学院での2年を経て、より明るく、自然に子どもたちと関わるができるようになったと感じます。明るく、という点では子どもたちと日々関わりを重ねられたことが理由だと考えます。実習や、ボランティア等で現場に行く機会が多くあり、有意義な時間を過ごせました。また自然に、という点では子どもの反応が理論に則って整理できる場面が増えたことが理由だと考えます。来年度以降、実践に関わる時間が増え、理論を学ぶことが疎かにならないよう努めたいと思います。



編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻(教職大学院) 入試広報部会

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577 ☒ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp

三重大学教育学部・教育学研究科ホームページ <https://www.edu.mie-u.ac.jp/>